

令和6年度

総合型選抜Ⅱ期

大学 生活環境学科 短大 生活学科

課題作文

試験開始までに下記の注意事項をよく読んでください。

試験時の注意事項

- ① 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- ② 解答用紙は学科により異なります。自分が受験する学科（受験票に記載された学科）と解答用紙の学科に相違がないか、確認すること。
- ③ 開始の合図の後、解答用紙に「氏名」・「受験番号」を記入すること。受験番号は算用数字で記入すること。
- ④ 解答用紙は横書きで記入すること。
- ⑤ 記述解答で、字数の指定がある問題では、句読点は1字として数えること。
- ⑥ 下書きは、問題用紙の余白または裏面を使用すること。
- ⑦ 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- ⑧ 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。

次の3つの課題から2つを選んで記述してください。その際、大学 生活環境学科受験者は800文字以内で記述し、短大 生活学科受験者は600文字以内で記述してください。両学科ともに1つの課題に対する文字制限はありません。

また、用紙の最初の行に下線部分の課題番号とテーマを記述し、次の行から本文を記述してください。

課題番号とテーマ

1. 新大学生朝食しっかりと

次の文章を読んで、朝食欠食を防ぐための方法について記述してください。

18歳から欠食率急上昇

厚生労働省が2019年に実施した国民健康・栄養調査によると、朝食を食べない人は全年齢の平均で12%強。14歳までは5%を下回っているが、高校を卒業する年齢に当たる18歳ごろから急に上がり、20代では男性27.9%、女性18.1%に達する。～中略～

「高校生までは家族と暮らし、朝食が用意されている場合が多いと考えられます。卒業後に一人暮らしを始めると、ぎりぎりの時間に起き、朝食を作る時間がないまま自宅を出る人が増えるのではないのでしょうか」。家族と住んでいる場合でも、通勤・通学時間が長くなると欠食率が上がる可能性がある。

(出典：新大学生 朝食しっかりと 18歳から欠食率急上昇
山口新聞朝刊 2023年4月1日 (時事通信))

2. 私が生活の中で実施しているSDGs行動について

貴女が自分の生活の中で実施している、または今後実施したいと考えているSDGs行動を説明して下さい。

参考：SDGs (持続可能な開発目標) の17の目標

1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなに。そしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられる街づくりを 12. つくる責任、つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう 16. 平和と公正を全ての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう

3. 女性の働きやすさについて

次の文章を読んで、女性が働きやすい環境を作るためにはどんなことが必要だと思うか記述してください。

英誌エコノミストは8日の国際女性デーを前に、先進国を中心とした29カ国を対象に女性の働きやすさを指標化した2022年のランキングを発表した。首位のアイスランド

ドをはじめ、上位4カ国を北欧諸国が占めた。日本は28位で、最下位は韓国。日韓両国は少なくとも16年から7年連続で同じ順位に甘んじている。

日韓両国について同紙は女性がいまだに「家庭と仕事のどちらかを選ばなければならない状況」にあると指摘した。～中略～ 北欧が上位を占める背景について同紙は「質の高い育児休暇制度や柔軟な勤務体制」を挙げた。

(出典：伊勢新聞 2023年3月9日 (共同通信配信))